

皆様おはようございます。

いよいよ再来週からは、主のご降誕を待ち望むアドベントがやってきます。せわしく忙しくなり、寒くもなりますが、私たちには救い主イエス様のご誕生をお祝いする素晴らしい出来事が待っています。

イエス様のお誕生の出来事は毎年祝っても、毎月祝っても、毎日祝っても祝いすぎることがないような、私たちにとっては喜ばしい、有難い出来事です。

そこに圧倒的な、絶対的な、究極的な救いと守りがあるからこそ、私たちは困難に耐えることが出来ます。耐えて進むことが出来ます。信じ続けることが出来ます。

黙示録 13 章。ここには想像を絶する世界が記されてあります。悪がこの上なく栄え、権威を帯び力をもってその悪の行いの限りを尽くし、致命傷をも乗り越えて回復して突き進むそのふてぶてしさ。その勢いの力のすさまじさに飲まれ、全世界の人々は、膝をかがめ、頭をかがめてその悪に対してひれ伏すのです。そしてこの悪は、神を冒瀆し続け、神の民、キリスト者を冒瀆し、聖徒に戦いを挑んでこれに勝ち、すべての国々を支配する権威を与えられます。聖徒たちは捕らわれ、虜にされ、殺されます。まさに忍耐が問われ、信仰が測られます。

どうして神様がこの世界におられるのに、このようなひどい有様になってしまうのか。いわゆる「神も仏もあつたものか」というようなひどい状況に陥る時、私たちはどのようにそれを理解し、耐え、それでも信じ続けることが出来るのでしょうか。

1 わたしはまた、一匹の獣が海から上って来るのを見た。それには角が十本、頭が七つあり、それらの角には十の冠があつて、頭には神を汚す名がついていた。

この描写は、12 章に登場しました龍と同じです。「悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへび」である龍、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落されたあの龍です。七つの頭を持ち、ずる賢く、その角には十の冠。支配する力を備えています。これをローマの皇帝たちとその知性とする見方もあります。ヨハネの当時にはそのような適用が出来たかもしれません。3 人の行程は即位してすぐに殺されてしまったと聞きます。十代に渡りはするものの、実質七人の皇帝と解するとのこと。しかしこの聖書の啓示は、その時代にとどまらず、あらゆる時代にあてはめられ、理解することを促すものです。クリスチャンたちを迫害する勢力、悪の勢力が時に政治的権力を得てほしいままにふるまうということは歴史の中に幾度となく見受けられます。そしてその権力者の頭には神を汚す名がついていました。名は体を表すと言いますが、この獣は神を汚す生き様の内に生きていました。

神をあがめているように見えて神の一人子キリストイエスの座を自らのものとして、再び洗われたメシアとして活動をしていた統一教会の文鮮明という人は、まさに神を汚す生き方をしていました。そして彼は家庭を惑わし、政治の世界に手を伸ばして権力を手にしてほしいままにふるまっていました。

2 わたしの見たこの獣はひょうに似ており、その足はくまの足のようで、その口はししの口のようにであった。龍は自分の力と位と大いなる権威とを、この獣に与えた。

この世を偽りと惑わしによって操る偽りの主であるサタンは、そのまやかしのうちに持っている「自分の力と位と大いなる権威」とを、この獣に与えました。この獣はひょうに似ており、その足はくまの足のようで、その口はししの口のようにであり、力と勢いに満ちていました。

3 その頭の一つが、死ぬほどの傷を受けたが、その致命的な傷もなおってしまった。そこで、全地の人々は驚きおそれて、その獣に従い、

4 また、龍がその権威を獣に与えたので、人々は龍を拝み、さらに、その獣を拝んで言った、「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」。

5 この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられ、四十二か月のあいだ活動する権威が与えられた。

致命的な傷を受けたかに見えるその一時期がありました。しかし、あれよといううちにその傷から回復し、ふてぶてしくも、この獣は立ち上がります。するとそれを見ていた全地の人々は、驚き恐れてその獣に従いました。ホロコーストのうちに 600 万人もの命を奪ったナチスドイツの指導者の暗殺計画が何度も失敗したということや、高射砲で政敵を粛正する北朝鮮の非道な指導者の君臨をも思い出さないでもありません。

18 節に、「獣の数字を解くがよい。その数字とは、人間をさす」とありますが、悪魔は、人間用いてその悪の業を行います。多くの人はその力を礼賛し、賛美し、従い尽くします。悪魔に仕立てられた獣は、神を畏れず、自らを絶対視して勝ち誇り、人々は「だれが、この獣に匹敵し得ようか。だれが、これと戦うことができようか」と叫びます。まさに終わりの時です。この獣には、また、大言を吐き汚しごとを語る口が与えられますが、それは 42 か月、3 年半限りのものです。

6 そこで、彼は口を開いて神を汚し、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちとを汚した。

7 そして彼は、聖徒に戦いをいどんでこれに勝つことを許され、さらに、すべての部族、民

族、国語、国民を支配する権威を与えられた。

8 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、その名を世の初めからしるされていない者はみな、この獣を拝むであろう。

その勢力は留まるどころを知らず、悪に親しみ、神を汚し、神に従う者たちをも汚し、冒瀆し、だれにも止められないような勢いを誇ります。飛ぶ鳥を落とす勢いとはこのことです。そして彼は、聖徒に戦いをいどんでこれに勝つことを許され、さらに、すべての部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられます。

どうしてここまでも悪が栄えるようなことになるのでしょうか。どうして？ なぜ？ 私たちの苦悩と悩みがここにはあるのではないのでしょうか。

8 地に住む者で、ほふられた小羊のいのちの書に、その名を世の初めからしるされていない者はみな、この獣を拝むであろう。

どうして安易にそのような悪しきものへと流されていくのか。どうしてそんなに浅はかなのか。真理が踏みにじられ、正義が捻じ曲げられているのに、どうして憂慮する人が少ないのか。

「ほふられた小羊のいのちの書に、その名を世の初めからしるされていない」人は、この獣を拝む方向へとなだれ行くことが分かります。

9 耳のある者は、聞くがよい。

10 とりこになるべき者は、とりこになっていく。つるぎで殺す者は、自らもつるぎで殺されねばならない。ここに、聖徒たちの忍耐と信仰とがある。

「聖徒たちの忍耐と信仰」。虜にされるべきならば虜に。逮捕され、連行されるべきならばそうなり、殺されるのならばそうなる。偽りの権力は束の間。悪が栄えているように見え、権威と力をほしいままにふるまい、人々がこぞってその悪の王権を支持し、神の民がどんなにか少数派になって下げ炭を得たとしても、神の小羊の書の中に名のある者は救われ、剣を取る者は剣によって倒れるのです。ここに聖徒たちの忍耐と信仰があります。

毛火力を得ているのもつかの間。悪に権力の源泉があるのではなくて、神が一時それをお許しになっておられるにすぎないのです。それは永続はしないのです。ここに聖徒たちの忍耐と信仰があります。

11 わたしはまた、ほかの獣が地から上って来るのを見た。それには小羊のような角が二つ

あって、龍のように物を言った。

12 そして、先の獣の持つすべての権力をその前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命的な傷がいやされた先の獣を拜ませた。

13 また、大いなるしるしを行って、人々の前で火を天から地に降らせることさえした。

14 さらに、先の獣の前で行うのを許されたしるしで、地に住む人々を惑わし、かつ、つるぎの傷を受けてもなお生きている先の獣の像を造ることを、地に住む人々に命じた。

15 それから、その獣の像に息を吹き込んで、その獣の像が物を言うことさえできるようにし、また、その獣の像を拜まない者をみな殺させた。

16 また、小さき者にも、大いなる者にも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に、その右の手あるいは額に刻印を押させ、

17 この刻印のない者はみな、物を買うことも売ることもできないようにした。この刻印は、その獣の名、または、その名の数字のことである。

18 ここに、知恵が必要である。思慮のある者は、獣の数字を解くがよい。その数字とは、人間をさすものである。そして、その数字は六百六十六である。

権力、奇跡的なしるし、回復、物をいう像、迫害、社会的、経済的生活、仲間外れ…、色々な困難の中、信仰者の忍耐と信仰は試されます。悪を受け入れなければ生きていけないようなにっちもさっちもいかない出来事が迫りくるとき、私たちは小羊のいのちの書の中に名前が記されているものであることを思い起こしましょう。

獣は人間によって私たちに向かってきます。しかしそれはことごとく不完全です。しかし私たちに羊飼いの命による贖いがあるのです。烏合の衆となって引きずられゆく人たちに、羊飼いの救い主の名を告げ、葬列の歩みを、命への歩みへと取って返して導かれるようにと祈り励みたいと願います。

◇祈祷；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。竜と獣たちがほしいままに振るう中、悪が権威を持ち、力をもって聖徒たちを打ち倒し、全世界はそのまことの神様を冒瀆して止まない悪の勢いの前にひれ伏し礼拝を捧げる、このどうしようもない事柄の中で、理解しがたい困難の中で、私たちはいかに忍耐し、信じ続けることが出来るのでしょうか。悪さえもあなたのお許しなくば何もできない事実と、私たちが究極的に守られ、救いの中にある事実とをもう一度思い起こさせてくださり、誠にありがとうございます。子供からお年寄りまで、あらゆる年齢の方々が、この時こそ教会にて、イエス・キリストに出会うことができますようお願いいたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン